

# I. アメリカにおける移民等に対する自国語教育の内容について

福永 由佳

## 1. はじめに

アメリカでは、学校教育における教育改革の流れを受けて、成人教育においても、1990年代末から教育内容の標準化が進められている。本稿では、州レベルおよび成人教育の専門団体レベルが作成した ESL(第二外国語としての英語)教育内容スタンダードの事例を取り上げ、アメリカにおける移民等に対する自国語教育の内容とその背景にある言語能力観を紹介する。

## 2. アメリカにおける移民の現状

アメリカは移民国家といわれているが、移民数は近年急激な増加を示している。2000年の国勢調査によると、移民はアメリカの総人口の約11%（約30,000,000人）を占め、子供の5人に1人は移民の親を持つといわれている。さらに、移民は従来沿岸部に集住しているとされていたが、90年代に入り、アメリカ全土に広がり、移民数が倍以上に増加した“新移民”州が誕生している。(National Immigration Law Center, 2004)。

また、2004年の国勢調査によると、16歳以上の成人総人口の約21%（約4千万人）は十分な識字能力を備えておらず、そのうちの約1300万人（約33%）が移民のような第2言語としての英語話者である (Center for Research in Education, 2005)。就労世代（18歳-65歳）の5人に1人が移民でありながら、その多くは低賃金労働に従事しているのは、低い英語能力に起因するといわれている。このような移民をめぐる状況は、英語教育を含む成人基礎教育を求める動きに連動している。

## 3. 成人基礎教育における教育内容スタンダードの開発

### 3.1 成人教育

アメリカでは、憲法上、教育は州の専管事項であるため、カリキュラムの策定など教育内容の検討やプログラムの実施に関しては州政府および学区が中心的な役割を果たしている。連邦政府は国策としての教育政策を打ち出し、関連する教育プログラムに財政支援を行なっている。

米国における成人教育システムでは、通常次の3つのカテゴリーのプログラムが提供されている。

成人基礎教育 (ABE) : 高校修了レベルの資格を目指す

成人中等教育 (ASE) : 高校修了以上、中等後教育レベルの資格を目指す

第二外国語としての英語教育 (ESL)

(OECD, 2004)

成人教育は、1964年の経済機会法（Economic Opportunity Act）および1966年の成人教育法（Adult Education Act）の制定を機に貧困対策の一環として開始され、マイノリティの教育機会の拡充を目指す補償教育の柱となっていた（ニューマン、1998）。

その後、1991年に成立した成人教育法（Adult Education Act）は、全ての州に対し、成人教育プログラムの質を示す指標を設けることが全ての州に義務づけた。さらに、1988年の総労働力投資法（Work Force Investment Act, 以下、WIAと略す。）によって、州政府は成人教育プログラムの教育成果に関する説明責任を一層強く求められることになった。

このような成人教育の充実を求める社会情勢に加え、幼稚園から高校のレベル（K-12レベル）の教育における教育内容スタンダードの導入を背景に、成人教育の分野でも1990年代から教育内容スタンダードの必要性が議論されるようになった。教育省成人職業教育局（The Department of Education, Office of Adult and Vocational Education, 以下、OAVEと略す。）は、州レベルにおける成人教育の教育内容スタンダード開発を積極的に支援している。

### 3.2 教育内容スタンダードの役割

教育スタンダード（Education Standard）とは、教育に関する目標、目標の達成度を判断する基準を意味し、次の3つの種類に分けられる（岸本、1998）。

- 教育内容に関するスタンダード・・・教えるべき内容、学ぶことが期待される内容としての知識と技能を記述したもの。
- 習熟度・到達レベルに関するスタンダード・・・学習者の習熟の程度や到達レベルを記述したもの。
- 教育条件に関するスタンダード・・・州、学区、学校が提供する教育的な資源（教育プログラム、教職員など）について定義したもの。

OAVEの支援事業のひとつとして、研究機関 The American Institute for Research が作成した教育スタンダード開発の手引書 *A Process Guide for Establishing State Adult Education Content Standards* では、教育内容スタンダード(以下、スタンダードと略する)を次のように定義している。

What learners should know and be able to do in a certain domain.

“ある特定の領域において、学習者が知り、できるようになることが期待されること”

(American Institute for Research, 2005)

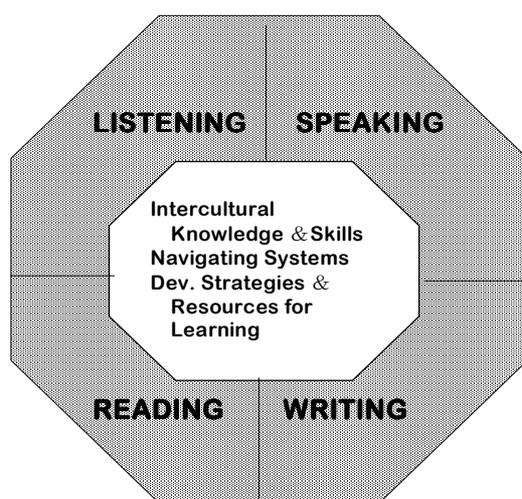
スタンダードは、カリキュラム、指導、評価、ベンチマーク（プログ्रेसインディケーター）の基盤としての役割を担い、教育担当者はスタンダードに基づき、カリキュラムや実践を考案する。McKay (2000)は、①planning（学習者が上達するように実践を計画するため）、②professional understanding（教師が学習者の上達を理解することを助けるため）、③reporting（予算に関わるアカウンタビリティ（説明責任）を果たすため）の3つをスタンダードの役割として定義している。このことは、スタンダードが単に教師、学習者だけのものではなく、教育政策、予算決定に関する重要な役割への期待を表わしている。

### 3.3 教育内容スタンダードの開発

前述の成人教育の3つのカテゴリー（ABE, ASE, ESL）を対象とし、数学、読み書き、英語などの教科に関するスタンダード<sup>1</sup>が開発されている。開発主体別に見ると、教育を主管する州と成人基礎教育の専門団体に大別できる。後者の専門団体のスタンダードとは、州が作成するスタンダードのモデル、あるいはマスタープラン的な役割を担うものである。ESLに関しては、Equipped for the Future (以下、EFF と略す)、Comprehensive Adult Student Assessment System（以下、CASAS と略す）といった専門団体が独自に教育内容スタンダードを作成し、そのスタンダードを採用する州に対して、教師研修や技術的なサポートを行っている。

次に、州レベルの成人 ESL 学習者対象のスタンダードの事例としてマサチューセッツ州のスタンダード、専門団体レベルのスタンダードの事例として CASAS のスタンダードを紹介する。

#### (1) 州レベルのスタンダードーマサチューセッツ州のスタンダード



(Massachusetts Department Education 2005: 28)  
[図1:スタンダード間の相互関係]

マサチューセッツ州のスタンダードの正式名称は、Massachusetts Adult Basic Education Curriculum Framework for English for Speakers of Other Languages(ESOL)で、成人 ESL 学習者が家族の成員、地域の成員、就労者として米国社会で十全に参加することができるために必要な知識と技能を学習することを目標として掲げている。成人 ESL 学習者が習得すべき技能は、EFF が定義するところの“生成的な技能”（コミュニケーション、意思決定、対人、生涯学習の技能）とし、7つの領域（話す・読む・聞く・書く、異文化、社会システム、学習ストラテジー）に埋め込まれ、それぞれについてスタンダードが

作成されている。

図1は、7領域のうち、異文化、社会システム、学習ストラテジーが話す・読む・聞く・書く領域に文脈を提供するという関係を表わしている。このような役割の違いにより7領域のうち、話す・読む・聞く・書く領域と、そのほかの領域ではスタンダードの構成に違いが見られ、いわゆる4技能領域では、スタンダードは細かく記述されているのに対し、そのほかの領域は大まかな定義のみに留まる。

#### <話す技能のスタンダード>

4技能の一つである話す技能に関しては、まず①目的・流暢さ、②語彙・構造、③ストラテジーに関する3種類のストランド (strands) が設定されている。

- ① さまざまな目的のために、英語で自分自身を表現する (目的, 流暢さ)
  - ② 語彙を習得し、英語の言語的構造と仕組みを応用し、理解できるように話す (語彙, 構造)
  - ③ 口頭で、意味を理解・伝達するために、さまざまなストラテジーを用いる (ストラテジー)
- (Massachusetts Department Education (2005)をもとに作成)

3種類のストランドには、さらに6レベルごとに下位項目が設定されている。話す技能のストランド①(目的・流暢さ)の場合、レベルごとに下位項目が3項目設定されている。下位項目の数は、ストランドによって多少違いがある。

**[表1:ストランド①(目的・流暢さ)の下位項目]**

レベル1 項目a: 基本的な個人情報話す(例 名前, 電話番号) 項目b: 基本的な挨拶や質問をし、答える(例 こんにちは, お名前は?, ご出身は?) 項目c: 身近な話題について、簡単に話す(例 緊急に必要なこと, 家族, 仕事, 目標)
レベル2 項目a: 単純な語や数字を言い、書きとる。(例, 子供の学校, アメリカ滞在年数) 項目b: 助けてもらいながら、習慣的な社交上の会話に参加する(例 お子さんは何歳ですか?, 6歳と2歳です。) 項目c: 助けてもらいながら、基本的なニーズに関連する単純な質問をし、答える。(例 値段, 健康, 交通)

<p>レベル 3</p> <p>項目 a：必要以上に複雑ではないが、やや詳細に言及しつつ、話をする（例 日常的な習慣、単純な説明、好みや意見）</p> <p>項目 b：短い社交的な会話に参加する（例、紹介する、依頼する、承諾する、断る、申し出る：誰か乗せてくれない？ 私の車は壊れているの）</p> <p>項目 c：態度を明らかにし、指示する（例 手当てがあるから、これはいい仕事だ）</p>
<p>レベル 4, レベル 5 (略)</p>
<p>レベル 6</p> <p>項目 a：あまり身近ではないことや問題のある状況で話す（例 事故の状況について説明する、子供の教師と話す）</p> <p>項目 b：自分自身や他人の複雑なアイデアについて、詳しく説明する（例 例をあげる、説明する、描写する）</p> <p>項目 c：アイデアを系統立てて話す（例 主要なアイデア、それをサポートする詳しい内容、結論）</p>

(Massachusetts Department Education (2005)をもとに作成)

このような3つのストランド（①目的・流暢さ、②語彙・構造、③ストラテジー）と下位項目という構造は、話す技能を含む、4技能のスタンダードに共通する構造である。

#### <社会システムに関するスタンダード>

図1に示す7領域のうち、いわゆる4技能以外の領域である、異文化、社会システム、学習ストラテジーは、上述の話す技能のスタンダードは異なる構造で記述されている。ここでは、生活システムの利用に関するスタンダードを例に説明する。

社会システム (Navigating Systems) 領域は、学習者が自らの生活に影響を及ぼすさまざまなシステム (図書館などの市民サービス、福祉などの政府組織、病院などの健康管理、銀行などの経済システム、大家-借家人関係などの住居、家族の権利と義務などの家族、警察などの法律) を適切に活用する能力を育成することを目標としている。

この領域に関しては、社会システムに関わる、4種類の下位スタンダードが設定されている。

- ①自分のニーズを説明する
- ②自分のニーズに関連するシステムの場所を知る
- ③必要なシステムで行動するスキルを身につける
- ④自分のニーズにシステムが対応しているか否かを評価し、必要であれば行動を起こす

4技能の領域とは異なり、レベルやベンチマークは設定されていない。その代わりに、

下記のような学習活動の例が簡単に示されるに留まる。

低いレベルの学習者の場合・・・絵や身振りをつかって、住居に関するニーズをリストにまとめる)

高いレベルの学習者の場合・・・住居に関するニーズをリストするだけでなく、ロールプレイや手紙を書く活動に発展させる

## (2)全国レベルのスタンダードー成人教育専門団体 CASASのスタンダード

CASAS は、25 年以上の歴史を持つ、成人教育を専門とする民間の非営利団体である。その業務は、各種の標準化テスト開発を中心に、スタンダードの開発、教材情報に関するデータベースやソフトウェアの提供、データ収集とシステムの改善と幅広い。特に、ESL の標準化テストは、連邦教育省および連邦労働省から公認され、全米各地の成人教育機関で利用されている。

### <CASAS コンピテンシーズ>

CASAS のスタンダードの大きな特徴は、成人が家族、地域社会、職場で必要とするスキルを意味する「コンピテンシーズ (Competencies)」を基盤としている点にある。CASAS はフィールドリサーチや企業関係者を含む成人教育関係者を対象にした大規模な調査を実施し、現在 300 以上のスキルをコンピテンシーとして認定している。コンピテンシーは固定されるのではなく、1980 年以来定期的に見直しが行われ、適宜修正が加えられている。

コンピテンシーズは、以下のように大きく 9 領域に分類され、各々の領域にさらに細かく下位項目が設定されている。

### ■9 領域

- |                  |             |
|------------------|-------------|
| 0. 基礎的なコミュニケーション | 5. 政府と法     |
| 1. 消費者のための経済学    | 6. 計算       |
| 2. 地域のリソース       | 7. 学ぶことを学ぶ  |
| 3. 健康            | 8. 自立生活のスキル |
| 4. 雇用            |             |

### ■基礎的なコミュニケーション領域 (0) の構造

#### 0.1 対人コミュニケーション

0.1.1 様々な状況下における非言語行動を理解し、使用する

0.1.2 情報伝達のために、適切な言語を理解し、使用する

(例 確認、描写、情報要求、要求、命令、同意・不同意、許可求め)

0.1.3 人に行動を促したり，促すために適切な言語を理解し，使用する。

(例 警告，依頼，助言，促し，交渉)

0.1.4 一般的な社交の場面における適切な言語を理解し，使用する。

0.1.5～0.1.6 (略)

## 0.2 個人的な情報に関するコミュニケーション

0.2.1 個人情報に関する質問に対し，適切に答える

0.2.2 個人情報用紙を完成させる

0.2.3～0.2.4 (略)

## ■健康領域 (3) の構造

### 3.1 健康管理のシステムの活用方法を理解する

3.1.1 身体部位を含む，症状の説明，医師の説明の理解

3.1.2 病院と歯科医院の予約に必要な情報の理解

3.1.3 適切な健康管理サービスと施設の理解と活用

### 3.2 健康，歯科の用紙と関連する情報を理解する

3.2.1～3.2.4 (略)

### 3.3 医療を選択し，利用する方法を理解する

3.3.1～3.3.3 (略)

### 3.4 健康と安全に関する基礎的な手続きを理解する

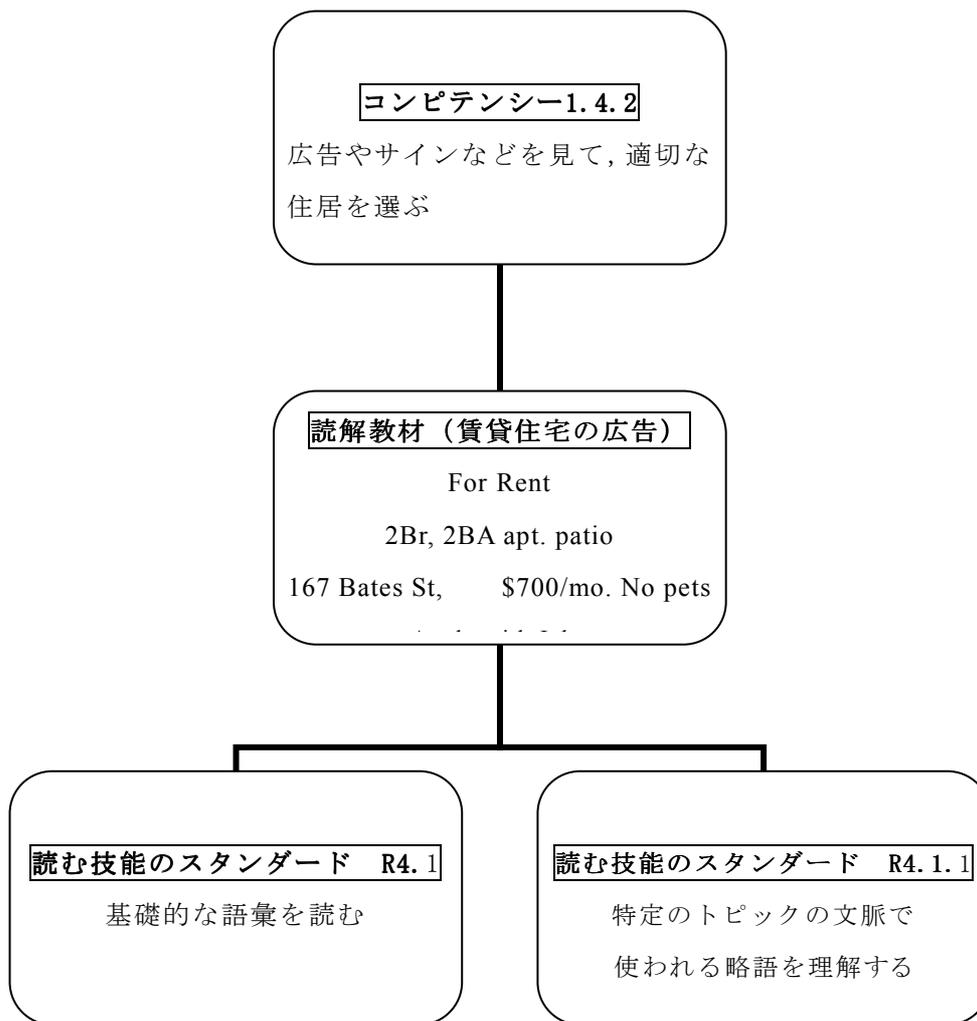
3.4.1～3.4.5

### 3.5 健康維持の原則の基礎を理解する

3.5.1～3.5.9 (略)

(CASAS (2003)をもとに作成)

コンピテンシーは，次に述べる CASAS のスタンダードの基本的なスキルと関連づけられている (図 2 参照)。つまり，学習者が特定のコンピテンシーを習得するために役立つ授業を計画するために，スタンダードが提供されているのである。



(CASAS (2006)をもとに作成，翻訳は筆者)

【図 2:コンピテンシーとスタンダードとの関係】

さらに CASAS では、実践－カリキュラム（スタンダード，コンピテンシー）－測定の統合が図られており，スタンダードと測定（標準化テスト）は密接な関係にある。

#### <聞く技能のスタンダード>

ESL 対象のスタンダードとしては，現在は，聞く技能と読む技能だけが公表されているが，聞く技能のスタンダードはいまだ草案の段階である。(CASAS, 2006)。

スタンダードでは，7種類の大分類の下に，さらに下位項目が設定されている

#### ■7種類の大分類

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| L1 語彙の理解       | L5 非対面の会話の理解     |
| L2 命令，説明，依頼の理解 | L6 情報伝達ディスコースの理解 |
| L3 文法構造の理解     | L7 推測            |

## L4 会話の理解

### ■語彙の理解（大分類 1）の構造

- L1.1 身体的な反応によって，身近な語彙の理解を示す
- L1.2 日常的な状況の文脈において，単純な語の理解を示す
- L1.3 語の意味に影響する音声を区別する（例 ミニマルペア）
- L1.4 既習の話題に関連する単純な語やフレーズの理解を示す
- L1.5 使用頻度が高い短縮形を理解する

前述のマサチューセッツ州のスタンダードでは，レベル別に下位項目が記述されていたのに対し，下の表が示すように，CASAS のスタンダードでは，大分類（例 L1）とそれらを構成する要素（L1.1～L1.5）がレベルごとに配分されるという形式が採られている（表 2 の◆印の分布を参照）。

【表 2: CASAS のスタンダードの構造】

	CASAS Level ⇒	ESL						
		A1	A2	A3	B1	B2	C	D
L1	(略)							
L1.1	(略)	◆						
L1.2	(略)		◆					
L1.3	(略)		◆					
L1.4	(略)			◆				
L1.5	(略)			◆				

(CASAS (2006)をもとに作成)

### <読む技能のスタンダード>

読む技能のスタンダードは，ESL と ABE/ASE 学習者を対象に作られており，ESL と ABE との連続が意識されていることが窺える。スタンダードの構造は，前述の聞く技能のスタンダードと共通である。

### ■9種類の大分類

- R1 基礎的な識字と音声
- R2 語彙
- R3 総合的な読解能力
- R4 書式を持ったテキスト
- R5 レファレンス
- R6 読解ストラテジー
- R7 読み，考える技能
- R8 学術目的の技能

## R9 文学作品の分析

### ■基礎的な識字と音声（大分類 1）の構造

- R1.1 英語のアルファベットの文字を理解する
- R1.2 文字が単語をつくり，単語が文をつくることを理解する。
- R1.3 左から右へ，上から下へ読む
- R1.4 文字を音声と関連づける
- R1.5 同音意義語の理解を含め，文字を発音と関連づける
- R1.6 一般的な音韻パターンを活用し，未知の単語を発音する

前述の聞く技能のスタンダードと異なり，読む技能のスタンダードでは，一つの要素が複数のレベルに配分されている場合が見られる（例 R1.1, R1.4, R1.5）。このことから学習が直線的に進むのではなく，複数のレベルで繰り返されるという方針が窺える（表 3 の◆印の分布を参照）。

【表 3:読む技能のスタンダードの構造】

	CASAS Level ⇒	ESL								ABE				ASE	
		A1	A2	A3	B1	B2	C	D	A	B	B	C	D	E	
R1	(略)														
R1.1	(略)	◆	◆							◆					
R1.2	(略)	◆								◆					
R1.3	(略)	◆								◆					
R1.4	(略)	◆	◆							◆					
R1.5	(略)	◆	◆	◆						◆	◆				
R1.6	(略)	◆	◆	◆						◆					

(CASAS (2006) をもとに作成)

## 4. まとめ

アメリカでは，成人を対象とした ESL 教育においても，スタンダード策定を通じて，教育内容の標準化が進められている。本稿では州レベルのスタンダードとしてマサチューセッツ州の事例，全国レベルの事例として専門団体 CASAS のスタンダードを取り上げた。

この 2 つの事例を比較すると，成人が家族，地域社会，職場で十全に参加できることを大きな目標に掲げ，そのために必要な技能をいわゆる 4 技能に限定せず，広く捉えていることに共通性があるものの，異なる理念を背景とし，異なるアプローチを取っていること

がわかった。

マサチューセッツ州の場合は、“生成的な技能”（コミュニケーション，意思決定，対人，生涯学習の技能）を重視し，7つの領域（話す・読む・聞く・書く，異文化，社会システム，学習ストラテジー）のスタンダードが作成されている。いわゆる4技能のスタンダードの内容は具体的に記述されているものの，それ以外の領域のスタンダードは大まかな指針を示すに過ぎない。

CASASのスタンダードが基盤とするコンピテンシーでは，社会で必要とされるスキルと知識の一つ一つが単純化され，はっきりとわかるように提示されている。また，学習の成果を重視し，何ができるようになったかを評価することの重要性が強調されている点も特徴的である。

このように異なるスタンダードが共存している場合，対象とする学習者や各々の事情にあったスタンダードを選択したり，参照しつつも独自のスタンダードやカリキュラムなどを開発する力が必要となるだろう。そのためには，学習者が社会で生活するために必要なコミュニケーション能力の捉え直しを学習者，教師，言語政策の担い手，さらに社会全体が取り組むことが不可欠である。

## 注

1 教育内容スタンダードは，州や団体によって，カリキュラムフレームワーク等と呼称されることもある。

## 参考文献

岸本睦久（1998）『『教育スタンダード』に関する動向』現代アメリカ教育研究会編『カリキュラム開発を目指すアメリカの挑戦』17-97，教育開発研究所。

ニューマン，アナベル（1998）『読み書きの学びー成人基礎教育入門ー』解放出版社。

The American Institute for Research (2005) *Guide for Establishing State Adult Education Content Standards*.

CASAS (2003) *CASAS Competencies: Essential life skills for youth and adult*.

CASAS (2006) *Aligning CASAS competencies and assessments to basic skill content standards*.

Center for Research in Education (2005) *Profiles of the adult education target population: information from the 2000 Census*.

(<http://www.ed.gov/about/offices/list/ovae/pi/AdultEd/index.html#factfigure>) 2007年5月1日参照

Massachusetts Department Education (2005) *Massachusetts adult basic education curriculum*

*framework for English for speakers of other languages (ESOL).*

(<http://www.doe.mass.edu/acls/frameworks/>) 2007年5月1日参照

McKay, P.(2000) On ESL standards for school-age learners. *Language Testing*, 17, 185-214.

National Immigration Law Center (2004) *Facts about immigrants*.

OECD(2004) *Thematic review on adult learning: United States Background Report*.